

2007年1月11～14日 マスターズ世界選手権 (Akersjøen, Sweden)

暖冬異変で突然の会場変更、
とにかく予定通り出発！！
スキー00の魅力に取付かれ、
今年も4人の熟年者が参加！

毎年の国際的珍道中？
果たして今年は？
その顛末をまとめる。

会場入りに3日を要す

< 武石雄市 >

2007年のマスターズ日本代表選手(?)
大里真理子(W40)
酒井か代子(W50)
高原 進(M65)
武石 雄市(M70)

今年はヨーロッパ各地も暖冬で雪が
降ってないと言う。

日本も積雪が無く、東北地方各地の
大会会場は軒並み延期や中止が決定さ
れている。

まさか、毎年積雪がたっぷりある
WMOC 会場のオッサナ(スウェーデン)に
雪が無いとは夢にも思わず、11月の初
滑り合宿、12月のクリスマス合宿・年
末年始合宿を計画的に消化した。

年末、会場変更の可能性が伝えられ
たが、1週後に「EXTRA BULLETIN」を
発行し会場はオケーションに変わって
いた。

200名を超える選手・役員の国際大会
が一瞬のように変更されて対応できる
スウェーデンスキー連盟の運営能力の
高さに驚き、感心もした。

さて、オケーションはエステシュン
から北西に90km、ストックホルムから
はなんと650kmもある。しかも、ホテル
は自分たちで探せ、と、言う事で幹
旋業者を介してコテージ1軒キープし
た。

私は、レンタカーを予約していた。
しかし、1日で650kmを移動して暗闇の
閑散とした冬のリゾート地でコテージ
を探し出す事の困難を予想し、オッサ
ナに1泊することにした。余談だが、
オッサナスキーセンターでは隣接地に
大きなテントも張られていて、すっか
り開催準備が整っていた。

つまり私たちは会場入りに3日を要
したが、他国の選手も例外ではなかつ



受付が終わった日本チーム、左から酒井か代子、高原進、大里真理子

た事だろう。

成田空港のチェックインでルフトハ
ンザからスキーの手荷物代として3個
分120EURの超過料金をとられ、何か幸
先に不安を感じ、私は秘かに「神よ、
われわれを災難から守り給え」と祈つ
た。



日の丸をペランダに掲げたコテージとレン
タカー(午後3時でこの暗さ)

かがり火で開会式

コテージレンタル料は5泊で4600
クローネ(約9万円)、物価の高いスウ
ェーデンだが、決して安くはない。

到着して午後、早速トレーニングコ
ースに出た。明日のモデルイベントも
このエリアだが、他選手が未到着なの
で常設のピステトラックに一本のスキ
ー跡も見えない。

久しぶりのスキーなのでたっぷり滑
りたいところだが、晴れた日でも正午
ごろ南の山彼方を横に移動していた太
陽が、2時過ぎには見えなくなり3時
には暗くなる。私たちは3時の集合場所

を決め、それぞれ滑った。

折角のコテージだし食事は酒井さん
にすっかりお任せすることにした。高
原さんは折り紙づくり、大里さんは語
学力で渉外担当、武石は運転とワクシ
ングで自然と役割分担は決まった。特
に酒井さんに食事を作ってもらおう事
が決まり、1番の心配事がなくなったこ
とは大きい。



開会式会場に炊かれたかがり火を目指して
近くの子供たちも集まってきた

オープニングイベントは19:00、場所
は会場であるホテルの裏、ゴールエリ
アがある斜面に雪を積み上げてステー
ジを作っている。当然、真っ暗である
がイベント場所までホテル前の道路か
らキャンドルをともして人々を誘導し
ている。ステージの前に炊かれたかが
り火を目指して選手や近くの住民が集
まってきたところ管理者が挨拶し、前10F
スキー00委員長 Kare Kirkevik が祝辞
を述べて簡単に終わった。急な会場変
更で競技部門の準備に精一杯。恒例で

あった選手団の入場行進は行われなかった。

参加した各国選手は中止しても不思議でなかったスウェーデンスキー連盟が万難を排して開催に漕ぎ着けてくれた事に大きな拍手で感謝の意を表していた。

最終日の表彰式も同じようにかがり火を焚いて自然の中で行われ、特別な演出が無く、むしろ幻想的で幽霊的でさえあった。

レースの結果？

I O Fルールで、スキーWMO Cはロングディスタンス 2 レースのトータルで成績とされる。リレーも行われるがこれはオープンとして記録には残らない。



ペランダは格好のワクシングスタンド

1月12日ロング第1レース、気温は-8、例年に比してかなりの高温だ。6時過ぎには起きて3人のスキーにワクシング、テストで板のすべりは十分。

～の途中、同コースで20数分前にスタートした酒井さんに声をかけ、の手前で大里さんを追い抜いてから集中心が途切れて、中央のピストトラックに目が移り結果的にタイムロスになった。強いスウェーデンやフィンランド選手がいる中でタイムも順位も巡航速度もまあまあだ。

翌日、ロング第2レースは時折強い吹雪の中で油断するとオープンエリアではトラックの分岐が見えなくなる。私は運悪くスタート時間がその影響を受ける事になり、を通過した後、数分遅くスタートした高原さんに現在地を確認するほどタイムロスをしていた。

トータルタイムは当然のように悪く、順位が7位と一つ下がってしまった。

日本選手の成績は次のとおりです。

W 4 0	大里真理子	2:58:22
W 5 0	酒井か代子	2:58:29
M 6 5	高原 進	3:01:56
M 7 0	武石 雄市	1:51:08

バンケットそしてドライブ

今回は、バンケットが最終日の前日に行われた。ホテルでのディナー形式で、メインデッシュはトナカイ？のステーキだ。

フロアーが狭いので恒例のダンスは行われなかった。変わりにアコーディオンとバイオリン奏者のコンビが参加国の歌を演奏して回っている。日本の歌はなぜか「知床旅情」、4人とも当然知っているのを声を合わせて高らかに歌ったら大きな拍手をもらった。



嬉しかった知床旅情の演奏

レース最終日、オープンリレーが行われた。短いコースを2x2のリレーだ。大会初日スウェーデンリレー選手権がナイトで行われたコースを利用したものだ。スタート直後に急登があり、登り終わると下りながら短いレッグをつなぎ合わせたコースだが、気を抜いたらオーバーランしてタイムロスする面白いコースだった。



ゴールして満足の酒井さんと大里さん

リレーが終わったその足で私たちはノルウェーにドライブした。入国証明のスタンプを押してもらうためにパスポートを携行した。

スウェーデンのR 3 4 0を50kmほど北東に走ると、凍った湖の湖岸道が突然R 765に変わった。そこには駐車場があり、大きな看板にスウェーデンとノルウェーの国旗がペナントのように接続されて地図が書かれてあった。何か文章も書いてあったが私には分からなかった。

私たちは更にノルウェー国道を最初の町を目指して20kmほど走ったが、生憎日曜日のため、人々の姿は見えないし、店も博物館等の記念館も休日です。

アがロックされていて見物も食事もできず土産も買えず、パスポートにスタンプ押印も無駄に終わった。



ノルウェーR 7 6 5の道路上に立つ

ワイパー不良の車で走る

コテージに別れを告げ一路ストックホルムを目指してハンドルを握る。650km、休憩を挟んで所要時間11時間と計算するとアランダ到着は午後6時になる。レンタカーの返納契約は20:00だから、兎に角安全運転だ。

前々日三叉路で車と交差するとき、路肩により過ぎてふわふわの雪で覆われた側溝に落ちそうになり、通りかかった車に牽引してもらい事なきを得ている。そんなわけで田舎道は広いと思っても交通交差は決してより過ぎない事だ。

速度制限が連続して110になり、片側2車線道が多くなるEロードを南下すると、気温も上がり雪が解けて跳ね上がりウィンドウワイパーを頻繁に使用するとワイパーが突然故障した。

ウォッシャー液は出なくなるわ、ワイパーブレードは動かなくなるわ、泥跳ねでウィンドウは汚れ、わずかな隙間からも視界が利かなくなり、燃料スタンドで工具を借りて応急修理する。

スウェーデンの燃料スタンドの給油は全部セルフサービスでカード払いだから人はいない。しかし必ずコンビニが接続していて運よく営業時間帯だったからその係りから工具を借りることができた。しかし、時間も無く根本的な修理ができなく、程なくワイパーは使用不能となる。対策はウィンドウが汚されないように走る事だけになった。汚れたら側道に車を寄せてタオルでガラスをきれいにする事数回、18:00 調度空港近くのホテルについた。ホテルへの道路が分からず、一時は駐車場の路側帯を突破する意見も出たが、空港を周回する事2回目でも入り口を発見し、長い一人運転のドライブは完了した。

(武石 雄市 記)

秤にかけたマスターズ

< 酒井か代子 >

APOCと秤にかけ、スウェーデンという事でマスターズスキーに参加しました。久しぶりのスキーなので12月に北海道までトレーニングに出かけたものの相変わらずの初心者レベルを抜け出せないままでした。

1年間、フットも怠けていたので、体力も落ちていて3日間のレースがきつく感じられました。

【1日目】 スタートしてすぐ登りでほとんどの人が同じルート。その度に止まってよけていたので少しも進めませんでした。予定通り中盤で同じコースの武石さんに追いつかれた時、武石さんのワックスのおかげで板は気持ちよく滑っていたので、つい地図も見ずに追走。そのせいで武石さん、大里さんの足を止めご迷惑をおかけしました。とにかくアップの少ないルート選択に徹し、何とか制限時間内にゴールできほっとしました。

【2日目】 昨日の反省から、追い越されるとき左足は道に残し右足は雪の中に置いて片足スケータング風にして止まらない事にしました。“お先へどうぞ”の気持ちを捨て、年末合宿での“一歩でも先へ”という堀江さんの言葉の実行でした。昨日同様に滑っていたので気持ちよくゴールできました。

【3日目】 傾斜の急なことが分かっていたので、最初から板を脱ぐことに決めていたけど体力が持ちませんでした。

1番コントロールのはずが着いたところは5番。1番への通過地点と考えられる位置だったので大きなロスにならずラッキー。でもゴールして座り込むほどの疲れを感じていました。3日間もたないほど体力が落ちていたのはがっかりです。

きちんと実力をつけて競い合えるようにしたいです。

(酒井か代子 記)



ほろ酔いのバンケットで高原さんと

罪悪感を押し切って行った5回 目の WMOC

< 大里真理子 >



雪の女王様？

あれは半年ほど前、私は年末年始休暇を長くしてほしいという社員のリクエストに対し、大見得を切っていたのだ。「そうねえ、じゃあ、今回は1日ずつ長くしよう。あれ？来年は5日に出社したらすぐ3連休か。いいや、大盤振る舞いで、年末年始の休暇は12/29から1/8の11連休にするね」「やった～!!!」と割れんばかりの拍手。

長い休暇を設定することは、キャブクラで気が大きくなって女の子に多額のチップを払うのに似ている。(なんていう比喩だ?!) その時はまさかWMOCの日程がこんなだとは夢にも思わなかった。

さて、今年のWMOCの日程が1/11? 1/14と発表された。いつもよりかなり早い。

場所はスウェーデンのオサナ。遅くても1/9に日本を出発しないと間に合わないし、1/17にしか帰国できない。つまり、社長の私が12/29~1/17まで連続不在。・・・流石にまずいでしょ。「やっぱり、年始は1/4にしてもいい?」と、喉まで出掛かったのだけど、これって、「さっきあげたチップのことだけさあ、払いすぎたから1万円返してくれない?」なんていうのと似ている。

それも理由が、「返してくれないと帰りのタクシー代が足りないんだよ」なら哀れを誘うが、「WMOCに行くからちょっとお」とは気が小さい(?) 私には言えなかった。

あきれた社員からは一言、「去年のようなことだけは勘弁ですよ」。そう、去年は長い休みをとって大枚はたいて行って、「失格」だったのだ。

さて、出発直前に事務局から「雪不足のため、開催地をオケーションに変更する」と連絡が来た。社員には「実はまだ泊まるホテルも決まっていなまま出発するので、連絡とれないかもしれません」とメールを残して、武石さん、高原さん、酒井か代子さんと成田を出発することに。

ストックホルムからはレンタカーで開催地に向かったが、武石さんが結局滞在中一人で1500キロほど運転した。(ちなみに成田? 山形の自宅(往復700キロ?)も武石さんは車である。恐るべし。

堀江君のお陰で会場近くに快適なコテージが借りられて、自炊。か代子さんのおいしくボリュームたっぷりの手料理は、明らかに運動量をオーバーしていた。(帰国して体重計に乗るのが怖い)私は皿洗いに精を出し、見事お皿を割った。(慣れないことはするものではない)

高原さんはいつものごとく、鶴をたくさん折っては、子供やお世話になった人にさしあげ、日本親善大使として活躍した。(スウェーデン人は“Oh, Origami!”と言って喜んでくれた)

さて、突然の会場変更で準備期間が2週間なかったそうだが、素晴らしいテラインで競技が楽しめた。少ない人数での運営は日本SKI-O研究会を彷彿させた。

初日のレースは、途中、ロストしたか代子さんに現在地を教えてあげるというフットでは考えられない優越感に浸りたいそうよかった。トップから150%ちょっとというも私にしては結構よい成績。

2日目のレースは、ラスボ前に今度は私がロストした。またその理由も情けない。マップホルダーに地図をはさむ時、いい加減にはさんだら、ちょうどルート上に穴をあけてしまい地図が読めなくなった。



スキーを楽しんでいる大里真理子

W40 クラスは M55 クラスとコースは一緒で、後発スタートの M55 の選手にちょうど抜かれたのでその後ろを着いていったら（下りだったので着いていけたのだ）、なんとその人が道を間違えてしまったのだ。彼はいきなり引き返したが、私の技術では止まれずそのまま下の方まで突き進んで行った。にもかかわらず失格者が一人出たせいで、順位はひとつ繰り上がり、総合 6 位で今年のマスターズを終了。

3 日目のリレーは、か代子さんがいなかったら、たぶん棄権しただろうなあ。いきなり 1 本を 50m 上らされて途中で私は疲れはててしまったのだ。

毎回 WMOC に出場して思うことは、スキーの技術ももちろんのことだが、基礎体力の差も大きいことだ。

上るしかなかった。マススタートだったので頑張ってたなんとか最後の人についていこうとしたのだが、足が全然動ず、差は開いていく一方。（高原さんの場合は足の長さが違うせいで遅れをとったそうだが）

高齢でよぼよぼしている方が、息も切らさずゆっくりと私を追い抜いていくのを見ては、私も彼らの年の時には同じようになろうと息切れ切れ思うのであった。

今から基礎体力を向上させる努力をしたら来年のマスターズはメダルに届くかなあ（笑）

来年は 1/14-1/21 にスイスのサンモリッツに近い S-chanf で、しかもワールドカップと併設で開催。是非皆で行きましょう～！！

しかし、私の席はまだあるのでしょうか？アークコミュニケーションズの皆様・・・

（帰国飛行機の中にて大里真理子記）

WMOC大会に参加して

< 高原 進 >

2007 年スキーオリエンテーリングマスターズ大会に参加しました。

結果は WMOC 1 及び WMOC 2 共に 1 番ポストから 2 番ポスト間のルートミスで現在位置の間違いを犯してしまい大きくロスしてしまい失敗レースをしてしまいました。

リレーに関しまして、私は前日までの失敗を取り返したように前半のきつい登りも休まずに上げて後半の降りもショートカットの連続で現在位置もしっかり把握できていました。

3 日目のリレーは前日雪が降ったため、3 日間とも失敗したら、何のために

遠いスウェーデンまで来たのか悔やまれるところでしたが、最後のレースだけでも自分の納得できるレースができた事が唯一の慰めです。



ゴールして余裕のある高原進

気温、雪温は -5 以下を覚悟してそれなりのワックスも用意していましたが、大会中は -4 から -2 ぐらいで、日本でよく使うワックスで違和感も無くスキーはそれなりに滑ったと思います。

雪不足の為にオサナから急遽会場が変更になり、オーケルションでの開催になりました。北緯 63 度 40 分ぐらいの緯度では、太陽は朝 10 時頃から 14 時頃までしか出ません。その太陽も南の空から上がり、日本での日の出のような状態のまままた南の空に沈むために明るさは感じられず、むしろ暗い（特に林の中で）と感じました。

表彰式は屋外で暗く少ない明かりと焚き火で行われ、これが彼らの習慣か

と感心しました。

日本製の YAMAHA スノーモービルの後ろに特性の鉄で作ったそりのような物をつけてコースを整備している事も、ホテルの脇にその現物が置いてありわかりました。

バンケットはホテルのレストランで椅子席でした。バイオリンとアコーディオンの楽隊が、参加した各国のフォークソングを演奏しました。日本は知床旅情で 4 人全員と一緒に合唱したところ、翌日「昨日は歌を歌ってましたね」と声をかけられました。もっともその事は、近くにはいた大里さんが通訳してくれてわかりました。通訳してくれた大里さん、コテージでおいしいものを作ってくれた酒井さん、車の運転で世話になった武石さんの三名に感謝をします。

（高原 進 記）



ノルウェー・スウェーデン国境看板前